

極左暴力集団

暴力革命による共産主義社会の実現を目指している極左暴力集団は、組織の維持・拡大をもくろみ、暴力性や党派性を隠し、社会情勢を捉えて、反戦・反基地運動や反原発運動等に取り組みとともに大衆運動や労働運動にも介入しています。一方で、引き続き調査活動に伴う違法行為や「テロ、ゲリラ」事件を引き起こすおそれがあります。

革マル派

革マル派は、**創始者である黒田寛一前議長の死後10年**を捉え、黒田前議長の「遺志」継承を訴える論文を植田琢磨議長名で機関紙に掲載し、改めて、**黒田前議長が提唱した理論に依拠した「組織建設」を訴えました。**

労働運動では、連合及びその加盟労組の指導部批判を展開し、それら労組が主催する定期大会等の会場周辺で、参加者に対して、同派への結集を呼び掛けるなどして勢力の拡大を図りました。

大衆運動では、「改憲阻止」を強く主張し、独自の集会、デモに取り組みました。また、大衆団体が主催する抗議行動に多数の活動家を動員し、同派の主張を訴えました。特に、沖縄県の米軍普天間飛行場の名護市辺野古移設及び米軍北部訓練場のヘリパッド移設に対しては、それぞれ「建設阻止」を主張して、現地で行われる抗議行動に活動家を積極的に参加させました。同派は、こうした取組を通じて自派の主張を展開し、勢力の拡大を図りました。

一方、革マル派が相当浸透しているとみられるJR総連及びJR東労組は、JR東労組の組合員らによる組合脱退及び退職強要事件について、裁判の終結後も、同事件を「えん罪事件」、「組織破壊攻撃」と主張しています。

革マル派は、今後も**黒田前議長の「遺志」継承を訴えながら、組織の維持・拡大を図るもの**とみられます。



革マル派のデモ（6月、東京）

中核派

中核派（党中央）は、労働運動を通じて組織拡大を図る「階級的労働運動路線」を堅持し、**最重要課題とする「国鉄闘争」のほか、各種闘争に取り組みました。**

「国鉄闘争」では、同派が主導する国鉄動力車労働組合（動労）の傘下労組を各地域で結成したことを機関紙等で強調するなど、組織拡大が順調であることをアピールしました。

「選挙闘争」では、平成28年7月の第24回参議院議員通常選挙に候補者を擁立し、「新しい労働者の政党をつくろう」をスローガンに選挙戦に取り組みました。

第5章 公安情勢

大衆運動では、オバマ大統領の広島訪問に反対し、原爆ドーム周辺で集会、デモに取り組んだほか、反原発を訴える集会、デモに取り組みました。

また、同派系全学連は、「全学連運動の大発展」をスローガンに掲げ、勢力の拡大を図りました。中でも、京都大学においては、全学連活動家の逮捕や停学処分を捉えて「弾圧粉碎」等と訴える「学内集会・デモ」に取り組みました。

一方、関西反中央派は、大衆運動を通じた組織拡大を目指し、反原発、反戦・反基地等のテーマで取り組まれる集会やデモに活動家を動員し、勢力の拡大を図りました。

中核派（党中央）は、今後も「**国鉄闘争**」を中心に、**労働法改正反対、反原発等を闘争の課題とする活動を継続**し、組織の維持・拡大を図るものとみられます。また、関西反中央派も反原発や反戦・反基地等を捉えた闘争に取り組むものとみられます。



中核派（党中央）のデモ（9月、東京）

革労協

革労協主流派は、「**農地強奪阻止**」をスローガンに、**成田闘争を重点**に取り組みました。

同派は、三里塚芝山連合空港反対同盟（反対同盟）北原グループが主催する闘争に参加するとともに、独自の現地闘争に取り組みました。

革労協反主流派は、反戦・反基地闘争を重点に取り組んだほか、原子力発電所の運転再開や建設に反対し、現地に活動家を動員してデモを行うなど、反原発・反核燃闘争にも取り組みました。また、非公然アジト3か所が摘発され、非公然最高幹部らが逮捕されると、同派は、「**革命軍は永遠に不滅である**」などと主張する「**革命軍アピール**」を発表しました。



革労協反主流派のデモ（1月、福井）

一方、伊勢志摩サミットにおいては、両派ともに、「サミット粉碎」等と主張し、現地に活動家を動員して、集会、デモに取り組みました。

両派は、今後も組織の維持・拡大を図るとともに、成田闘争や反戦・反基地闘争等をめぐる情勢次第では、「テロ、ゲリラ」事件を引き起こすおそれがあります。

成田闘争

反対同盟北原グループ及び熱田グループは7月、東京都内でそれぞれ「三里塚闘争50周年」を記念する集会を開催し、各グループを支援する極左暴力集団は活動家をそれぞれ動員しまし

た。また、成田国際空港株式会社と反対同盟北原グループとの間で争われている耕作農地の土地明渡し裁判においては、10月25日、最高裁判所で上告棄却の決定がなされると、反対同盟北原グループを支援する極左暴力集団は、同決定を捉え、「不当極まる決定だ。断じて許さない」などと主張しました。

極左暴力集団は、今後も成田闘争に取り組み、空港関係者、空港関連施設等に対する違法行為や「テロ、ゲリラ」事件を引き起こすおそれがあります。

極左暴力集団対策の推進

警察では、極左暴力集団に対する事件捜査及び非公然アジト発見に向けたマンション、アパート等に対するローラーを推進するとともに、ポスターを始めとする各種媒体を活用した広報活動を推進した結果、28年中、非公然アジト4か所を摘発するとともに、極左活動家ら35人を検挙しました。

このうち、非公然アジトの摘発については、1月に、警察庁指定重要指名手配被疑者である**大坂正明**が過去に潜伏していたとみられる**中核派（党中央）の非公然アジト**を摘発しました。2月に、機関紙で「サミット爆砕」等と主張していた**革労協反主流派の非公然アジト3か所を一斉摘発**しました。

特に、革労協反主流派の非公然アジトでは、火薬、時限装置に使用するとみられるIC、偽造ナンバープレート等、多数の証拠品を押収しました。同アジトは、同派非公然最高幹部らが居住し、**武器の研究開発、製造や調査活動の拠点として使用**していたものとみられます。

一方、逃亡中の大坂正明に関する情報提供を広く求めるため、11月に、昭和46年の警察官殺害事件を捜査特別報奨金の対象事件として指定しました。

警察では、引き続き、国民の理解と協力を得ながら、極左暴力集団による違法行為の取締りを徹底することとしています。



革労協反主流派の非公然アジトにおける押収品

極左暴力集団 指名手配

捜査特別報奨金
300万円 (上限額)

情報提供先
警視庁公安部公安第一課
03-3581-4321
<http://www.keishicho.metro.tokyo.jp/>



おおさかまさあき
大坂正明

身長 178cm
右目下に1~2針縫った痕
左目上に小豆大の傷痕

昭和46年
警察官殺害事件(渋谷暴動事件)

昭和24年9月29日生
67歳(平成28年11月現在)



桐島 聡

昭和29年1月9日生
62歳(平成28年11月現在)

東アジア反日武装戦線
昭和50年 連続企業爆破事件

きりしま さとし

身長 160cm
強度の近視
口唇厚くや大きい

情報をお寄せください。 **警察庁**
<http://www.npa.go.jp/>

※スター-前掲欄 H29.10.31

極左暴力集団指名手配ポスター